

2015年度大学入試センター試験・分析表 科目 旧地学I

1月18日 23時20分

■ベネッセ・駿台共催／データネット実行委員会

— 半分以上が「地学」と共通。理解力を要する出題は継続。昨年より易化 —

1. 全体概況

【大問数・解答数】	大問数5、解答数30個は昨年より変更なし。
【出題形式】	文章選択問題と語句選択問題を中心とした出題であったが、図をもとに考えさせる問題も多かった。選択肢の数は昨年より減少（7択以上は14→8）した。「地学」との共通問題がみられた。
【出題分野】	特定の分野に偏ることなく、幅広く出題された。
【問題量】	昨年よりやや減少。
【難易】	問題難易は昨年より易化。

2. 大問別分析

第1問「固体地球」（20点・標準）

Aは、「地学」第1問Aとの共通問題で、地球の形と重力に関する出題であり、プレートの移動速度の計算問題も出された。Bは、地震波速度とアイソスタシーに関する出題であり、P波・S波についての知識と、アイソスタシーについての計算ができるかどうか問われた。

第2問「岩石・鉱物」（20点・標準）

Aは、火成岩と造岩鉱物に関する出題であった。問3は「地学」と共通問題であり、鉱物の具体的な晶出順序を考える、目新しい問題であった。Bは、地球の内部構造に関する出題であり、問5、問6が「地学」と共通問題であった。プレートテクトニクスも含めた総合的で幅広い知識を必要とする問題であった。

第3問「地質・地史」（20点・やや易）

Aは、「地学」第3問Aとの共通問題であった。地質図に関する出題であり、地層の走向・傾斜、地質構造や地層の形成、放射年代について問われた。Bは、地史に関する出題であった。各年代でどのようなことが起こったかをしっかり理解できているかが問われた。

第4問「大気・海洋」（20点・やや難）

Aは、「地学」第4問Aとの共通問題で、対流圏の大気について水蒸気圧と温度の分布を示した断面図を用いての問題であった。選択肢の文を読みこなさないと正解できない難問であった。Bは、塩分と海洋の循環に関する知識問題であり、易しい。

第5問「天文」（20点・やや難）

Aは、「地学」第5問Aとの共通問題であり、恒星の見かけの明るさと距離の関係、HR図上の恒星に関する考察や知識が問われた。Bは、ハッブルの法則、天体の密度に関する知識が問われた。AもBも教科書等では見慣れない図を扱った問題であった。

3. 過去5カ年の平均点（大学入試センター公表値）

年度	2014	2013	2012	2011	2010
平均点	50.22	68.68	69.48	64.30	66.76